



展覧会概要

戦国の世を生き抜き、天下統一を果たした家康。そして家康の九男として誕生し、泰平の世に尾張国の統治を任された義直。二人は親子でありながらも対照的な生涯を送りました。家康から莫大な財産と蔵書を受け継いだ義直は、尾張藩の基礎を固め、名古屋を繁栄に導きました。

本展覧会では、家康から義直へと受け継がれた治世方針に焦点をあてながら、二人の生涯や政治に対する姿勢、そして義直の家康への想いを、遺品や史料などを読み解きながらたどります。

展覧会基本情報

- ◆展覧会名 夏季特別展 家康から義直へ
- ◆会場 徳川美術館 本館展示室・名古屋市蓬左文庫展示室
- ◆会期 2021年7月17日(土)～9月12日(日) ※会期中展示替あり
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 月曜日(但し、8月9日(月・祝)は開館、翌10日(火)は休館)
- ◆観覧料 一般1,400円 高・大生700円 小・中生500円
※20名様以上の団体は一般1,200円 高大生600円 小中生400円
※毎週土曜日は高校生以下無料
- ◆主催 徳川美術館 名古屋市蓬左文庫 中日新聞社 日本経済新聞社
- ◆協力 名古屋市交通局

プレス内覧会

2021年7月16日(金) 午後1時30分～2時30分

会場：徳川美術館講堂

内容：展覧会担当学芸員による概要解説の後、自由取材

戦国の覇者、偉大なる父・家康の生きた時代と義直の少年時代

第一章 家康と豊臣家、そして義直

初代尾張藩主 徳川義直を語るにあたり、天下統一を成し遂げた偉大な父、家康を避けて通ることはできません。信長亡き後に羽柴（後の豊臣）秀吉と対立した長久手合戦、そして関ヶ原合戦や大坂の陣など、戦国時代の有名な戦にまつわる史料から、家康が生きた戦国という時代の様相を紹介します。



重要文化財 豊国祭礼図屏風（左隻） 岩佐又兵衛筆
慶長9年（1604）8月に行われた豊臣秀吉七回忌祭典の情景を描いている。右隻は豊国神社の社頭における田楽猿楽と祭の行列を写し、左隻には方広寺大仏殿を背景に、上京・下京の町衆が揃いの華美ないでたちで、豊国踊に熱狂する光景を描いている。（右隻：7/17~8/15 左隻：8/17~9/12 公開）



重要文化財 刀 無銘一文字 名物 南泉一文字
豊臣秀吉が所持し、その子・秀頼が慶長16年（1611）3月28日、二条城対面の折に家康へ贈った刀。家康歿後、駿府御分物として義直に譲られた。



長久手合戦図屏風（部分）
長久手合戦は、家康・織田信雄連合勢が、羽柴秀吉配下の武将を破った合戦。画面中央上部に、山影から現れた家康の金扇の馬標（赤丸部分）が描かれている。（7/17~8/15 公開）

「直鋒」 纒
纒は武將の居場所を視覚的に示す大型の旗で、縦3m・横2.5mにもなる。「直鋒」とは尖った切っ先という意味であり、関ヶ原合戦で松平忠吉（家康四男）が使用した。



一六〇七年、尾張国清須城に封じられていた義直の兄・松平忠吉（家康四男）は、二十八歳でこの世を去ると、同年四月に義直が尾張国を引き継ぎました。ここでも親吉が義直に代わって国政を代行し、甲斐の武田の遺臣団や尾張の忠吉の遺臣団をまとめ上げ、義直家臣団が形成されていきました。

一方、義直の少年期は家康と秀吉の息子・秀頼の間で緊張がなお高まっていく時代でした。秀頼が家康と二条城で対面した際の返礼使者として義直が大坂に向かっています。義直が尾張国主としてその武威を知らしめたのは一六一七年、家康が大坂城を攻

秀吉歿後、家康は豊臣政権下で対立した石田三成らを破った関ヶ原合戦で天下の実権を掌握しました。この約二カ月後に義直は大坂城西之丸で誕生しました。家康が確固たる地位を築いたとはいえ、未だ豊臣家が健在であり、両家の間で緊張が高まっていた時代でした。

義直は一六〇三年に甲斐へ転封されましたが、幼少のため甲斐へは赴かず、駿府の家康の膝元で育てられました。幼き義直に代わり国政を代行していたのが、家康の忠臣・平岩親吉です。



右：熊毛植黒糸威具足
家康が着用した甲冑。名古屋城小天守内では他の具足と区別して保管されていたと記録されている。
左：銀泊置白糸威具足
義直の兄である松平忠吉が関ヶ原合戦で着用した。

錐形兜
大坂の陣で初陣を果たした義直が身に着けたと伝わる。



陣太鼓
家康が所持した太鼓。有名な家康の甲冑「熊毛植黒糸威具足」に付随して伝わった。

めた大坂の陣でした。この時、義直は尾張勢約一万五千の軍勢を率いて初陣を果たしました。

義直は変革の江戸時代初期を最前線で経験しながら少年時代を過ごしました。義直は大坂の陣の時に、「鉄砲が降り注いでも動じることがなかった」と記述に残るほど武人らしい武人へと成長していきます。



徳川家康自筆書状 おかめ・あちゃ宛
疱瘡を患った義直の回復を喜び、義直の母であるお亀の方と側室の阿茶局に宛てて書いた自筆の手紙。「うれしさ」「めでたく」と何度も記されており、家康の喜びと義直への愛情が見て取れる。

武から文へー名古屋の礎はいかに創られたのか

第二章 義直の治世

家康が七十五歳で亡くなると、十七歳の義直は將軍家を補佐する御三家の筆頭として、莫大な遺品「駿府御分物」を引き継ぎました。これには家康の愛用した武器・甲冑や茶道具・日用品・書物など多種多様な品が含まれていました。またこの頃から政治的にも独り立ちし、尾張藩政を精力的に推し進めます。その事業は新田開発・治水事業・地場産業の発展等、多岐にわたり、尾張藩の財政の基盤づくりに貢献しました。

また義直は大変学問を好み、特に儒教を推奨しました。名古屋城内に東照社や孔子を祀り、蔵書を公開するなど、文化面でも尾張藩に大きな痕跡を残したのです。

「武から文へ」という大きな歴史の転換によって、その後二百五十年続く、世界でも稀な平和な時代が築かれました。その波を時にはつくり、乗りこなし、尾張の舵取りを務めあげた義直は、名実ともに尾張藩の始祖でした。その遺志は義直の死後も後継者たちによって受け継がれ、現代の名古屋の発展へと続いていくのです。



東照大権現像

義直が描いた家康の姿。一般的な家康像（東照大権現像）と比べ、人間味と柔らかさが見られる。(8/17~9/12公開)

「大学」の語

「君主たるもの一人の時も自律すべし」とする儒教の教えを書いた義直直筆の書。(7/17~8/15公開)



重要文化財 脇指 無銘 貞宗 名物 物吉貞宗

義直の母、お亀の方の計らいによって義直へ受け継がれた家康の愛刀。尾張徳川家にとって最も大切な刀である。



聖像・牡丹時絵祠堂型厨子

儒教を志向した義直が、名古屋城内で祀った厨子。儒教で崇拜する孔子ら、古代の政治家・学者の像が安置されている。



じんぎほうてん 神祇宝典

義直が編纂した神社の研究書。神社の歴史を古代以来の文献で明らかにした。名古屋市蓬左文庫蔵

ひとがら 義直のおもしろ人柄エピソード

1. それ、眠れたの？

父家康を尊敬していた義直は、家康の子として誰よりも武人であろうとしました。眠るときは脇指を手元に置き、寝返りを打つごとに右、左、と脇指の置き位置も変えたそうです。

2. 頑固者は周りが大変！

三代將軍家光に男児（四代將軍家綱）が生まれた際、家光が義直に、お宮参りに随行するよう命じました。秩序を重んじる義直は「なぜ大納言の私が、生まれたての無位無官の赤ん坊の御供をするのか」と断固拒否。將軍の息子なのだから…と説得する周囲に対し「私も將軍家康の子だ」と応えました。

3. 江戸時代に図書館

学問を好んだ義直は大量の本を持っていました。これを「決して門外不出としないように」命じ、一部を名古屋城で家臣に公開させたのです。江戸時代の始めに図書館の発送を持っていた人でした。

4. 良いと信じたら最後まで徹底

儒教を重んじた義直は、自分の葬儀も儒教式で執り行うよう遺言しました。そのため定光寺にある義直の墓は儒教式で、仏教式の戒名も付けられていません。歴代尾張藩主で戒名が無いのは義直ただ一人です。

真面目 頑固



徳川義直画像 模本（部分）

展覧会関連イベント

◆記念講演会 「尾張徳川家の成立と将軍家一家康の遺命と義直」

講師： 中京大学 教授 白根 孝胤氏
日時： 2021年8月1日(日)
午後1時30分～3時(開場：午後1時)
会場： 徳川美術館 講堂
定員： 先着60名(先着順)
参加費： 無料(入館料は別途必要)

◆徳川美術館 第100回名古屋市文化史教室

夏休み子ども企画 徳川家康と徳川義直

期間中ご来館いただいた全ての小中学生の方に「家康と義直のことがわかるガイドブック」をプレゼントします。(※高校生以上の方は1冊200円で購入可能) また、ギャラリークイズでは展示室をまわってクイズに挑戦。参加者には家康と義直のシールをプレゼント。

日時： 2021年7月21日(水)～8月31日(火)
対象： 小・中学生
主催： 徳川美術館・名古屋市
参加費： 無料(入館料は別途必要・毎週土曜日は小中高生入館無料)



◆トクガワナイトミュージアム ver.1

少人数でゆっくりと鑑賞をお楽しみいただける夜間開館を実施いたします。参加者限定のオリジナルジュートートバッグのお土産付。

日時： 2021年7月24日(土)・31日(土)・8月7日(土)・13日(金)・14日(土)・21日(土)・
17時30分～20時
定員： 各日60名(最少催行人数15名)
料金： 5,000円(税込)
申込方法： オンラインチケット 購入先着順 <https://www.e-tix.jp/tokugawa-art-museum/>
発売日： 7月開催分は完売
8月開催分 2021年7月7日(水) 正午～



視聴者・読者プレゼント提供

夏季特別展「家康から義直へ」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。画像を1点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧会の御招待チケット(非売品)を、1媒体5組10名様にご提供いたします。



お問い合わせ 取材は随時お受けいたします



〒461-0023 名古屋市東区徳川町1017
TEL：052-935-6262(10時～17時受付)
052-935-8222(営業時間外受付)
FAX：052-935-6261

[報道関係対応窓口] 徳川美術館 管理部
吉川 由紀 yuki@tokugawa.or.jp
竹内 大知 d.takeuchi@tokugawa.or.jp



夏季特別展 家康から義直へ
広報画像申請書 使用期間：～2021年9月12日



徳川家康画像（東照大権現象）
（部分）
伝狩野探幽筆
江戸時代 17 世紀
徳川美術館蔵
公開期間：7月17日～8月15日



熊毛植黒糸威具足
（部分）
徳川家康着用
桃山－江戸時代 16 – 17 世紀
徳川美術館蔵



徳川義直画像（模本）
（部分）
桜井清香模写
昭和 12 年 (1937)
（原本：江戸時代 17 世紀）
徳川美術館蔵



「大学」の語
徳川義直自筆
江戸時代 17 世紀
徳川美術館蔵
公開期間：7月17日～8月15日



徳川家康自筆書状
おかめ・あちゃ宛
慶長 16 年 (1611)
徳川美術館蔵



徳川家康画像
徳川義直筆・同賛
江戸時代 17 世紀
徳川美術館蔵
公開期間：8月17日～9月12日



重要文化財 脇指 無銘 貞宗 名物 物吉貞宗
南北朝時代 14 世紀
徳川美術館蔵

使用媒体

放送日・発売日

プレゼント提供 希望する ・ 希望しない

貴社名

ご担当者様

データ送付先アドレス

ご連絡先電話番号

[ご利用にあたっての注意事項]

- ・画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- ・部分アップのトリミングは可能ですが、色変更等の加工はご遠慮ください。
- ・二次利用不可です。
- ・画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- ・内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ・ご掲載誌、DVD等を1部「徳川美術館 管理部 広報宛」でお送りください。



〒461-0023 名古屋市東区徳川町 1017

TEL : 052-935-6262 (10時～17時受付)

052-935-8222 (営業時間外受付)

FAX : 052-935-6261

担当：吉川 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 d.takeuchi@tokugawa.or.jp